

「住みたい街」から「住み続けたい街」へ ～安全・安心で世代をつなぐ～

※世帯数及び人口は令和 4 年 4 月 1 日現在

中区	小学校区・地区名	幡多学区	世帯数	8,798 世帯	人口	18,880 人
----	----------	------	-----	----------	----	----------

■組織概要

学区は高経済成長期から宅地化が進み世帯数・人口が急増し、のどかな田園地帯から住宅市街地へと一変した。国道 250 号線と JR 山陽本線に囲まれた小中学校周辺の交通量は極めて多く、学童の安全確保は幡多学区防犯協議会はじめ地域全体の課題となっている。「子どもの安全を守る」という共通目標が各団体と町内会・関係団体との連携を強め、子育て世代の地域参加・シニア高齢者層の活躍・世代交流へと広がった。安全・安心の活動は時代の変化にあわせた新たなつながりを築きながら、住環境に適した「住みたい街」から子どもから高齢者まで誰もが安心して暮らせる「住み続けたい街」をめざしている。

■活動紹介

【幡多学区安全見守り隊】

児童の列が続く登下校時の安全を、見守り隊が支えている。元気な挨拶や声掛けなど子ども達と隊員のコミュニケーションは学区に安心と活力を生んでいる。



通学路の安全を支える見守り隊の活動

【住みたいまち幡多学区を創り隊】

子育て世代の有志らにより平成 28 年に結成された。子どもが育つ地域の環境づくりをめざして、共に協力・参加する仲間を増やしながらか種団体やボランティア等と連携して地域活動に取り組んでいる。発達障害への理解支援・地域交流の企画運営・イメージキャラクター製作など、若い世代の活躍によって学区内の活性化が大きく進んだ。

（区づくり推進事業）

イメージキャラクター“はたワン”の製作

住みたいまち幡多学区を創り隊が企画し、学区への愛着や好感度を高めるイメージキャラクターが製作された。幡多小学校児童からイメージや名前を募集して誕生した「はたワン」は、学校行事や学区のイベントに登場し地域のマスコットの存在になっている。



幡多学区イメージキャラクター「はたワン」
帽子には地域特産の柿があしらわれている

【幡多学区防災訓練・防災キャンプ】

自主防災会と各団体が連携して同日に開催し、学区あげての行事として定着している。訓練では住民同士が協力しながら災害時の行動と共助を確認する。防災キャンプとして子どもの体験学習を加えることで家族ぐるみの参加が増え、多世代が交流する機会になっている。

（左）自衛隊員から土のう積みの指導を受ける。



（右）住みたいまち幡多学区を創り隊が企画した「どろんこ体験」
子どもたちが水害時の動きを疑似体験した。（H29）

地域防災活動

【防災マップの再編】

平成 30 年西日本豪雨災害後にいち早く開催された「防災のつどい」には住民約 350 名が参加した。講演会に続いて行われた防災マップの確認では、地区に分かれて避難経路や危険個所を記入。新たな情報が追加された新版マップが翌年完成した。



（↑）危険個所を協議してマップに追加
（↓）新版「幡多学区防災マップ」が完成

